

長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

ISSN 1347-7994

Summer

Vol.
52

Choho

長崎大学広報誌
「チョーホー」



特集

[長崎大学 × まちづくり] 新時代

Choho

長崎大学広報誌「チョーホー」 Vol.52 2015年7月1日発行 長崎大学ホームページ <http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

学びの 森の 風景

Scene 14



文教キャンパスの東門そばにある薬用植物園では、薬学部の3年生が薬用植物のスケッチを行い、分類の実技を学びます。ここには457種の植物が栽培されており、なかでも初夏の風物詩のような存在が、このブラシノキ。オーストラリアが原産で、少なくとも樹齢12年以上。見上げるほど大きく、ブラシ状の真っ赤な花が咲くと、木全体が燃えるような赤に染まります。このブラシの先の部分が成長すると新たな枝になり、その先に翌年また新たな花が咲くそうです。これから夏にかけては、ほかにノウゼンカズラ、モミジアオイ、ムクゲ、イセハナビなど、色も形も異なる花が次々に咲き始めるとか。楽しみです。平日は公開しており、一般の方も訪れることができます。撮影／沖田夏樹(経済学部 職員)

特集

[長崎大学] まちづくり 新時代

学長室
だより

地域を掘り下げること 世界が見えてくる

地方創生の要が叫ばれる中、改めて地方に存在する大学の意味が問われています。地方創生のために、大学はどんな役割を果たせるのか、何をすべきかという問いです。地域産業を活性化し新たな雇用を生み出すイノベーションを創出し、地方創生の中核を担う高い志と能力を兼ね備えた次世代人材を地域に輩出するというのがこれまでの答えですが、長崎県もふくむ地方における人口減少と高齢化が、そのような一般論だけで済ますことのできないところまで進捗しつつあります。長崎大学は、長崎県の行政や産業界と連携して、本気で知恵を絞り、腰を据えて協働して、人口減少に歯止めをかけるための具体的成果を生み出す責任がある。どうやら、そんな時代に立ち至ったようです。

人材こそが大きな力を発揮します。東西南北に長く伸びる日本列島に散在する地方が有する多様性こそが、我が国の宝です。あの明治にあって新しい日本を創造したのは、薩摩や長州のみではなく、日本各地に散在した藩校や私塾で学んだ多様な知識人たちであったことは、歴史が教えています。情報通信革命により、地方と首都、地方と世界の機能的距離は劇的に短縮されています。地方の多様性の影響力を国や世界に波及させるに絶好の環境があります。長崎大学は、ならではのイノベーションと人材を世界に発信し、持続的に発展する地球の未来に貢献する必要があります。



地球規模課題のしわ寄せは辺縁：地方に凝縮します。地域を掘り下げること、世界が見えてくる。そんな時代です。地方創生への貢献と世界レベルでの貢献は、決して相反する価値観ではありません。二つの価値観は、グローバル化する現代の地方大学というコインの表と裏の関係とってよいのです。

片峰 茂

地域の持続可能性が問われるいま、
地域と大学との関係にも進化が求められています。
大学が地域で果たしうる役割は何なのか。
NPO、商店街、行政や卒業生の立場から
それぞれの思いを語っていただきました。



CONTENTS

長崎大学広報誌
[チヨ-ホ-]
Choho Vol.52

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	地域を掘り下げること世界が見えてくる	1	表紙のはなし
特集	「長崎大学×まちづくり」新時代	2	長崎市白鳥町に新しくできた、国際学寮ホルテンシア。多文化社会学部の1年生が留学生と混住し、多文化を実感しながら日常生活を営む、学びの場です。2つの棟に挟まれた芝生の中庭は、様々な国の学生たちが集います。
長崎大学のいま!	医学部 保健学科	11	
トピックス①	国際学寮ホルテンシア、始動!	15	
トピックス②	被爆70周年企画 被爆地長崎の「知の拠点」に	17	
グラバー図譜	ゴマサバ	19	
Information	2015年オープンキャンパス	21	
	長崎大学「通」クイズ	22	
	編集後記	22	

理論と実践の
すり合わせ
学生の視点が
新たな気づきに

山口先生の専門領域は、地域経済。行政の審議会や委員会、公民館講座などにも積極的に参画されており、市民にもおなじみの存在です。山口ゼミでは、これまで商店街の調査や地域の物産開発、震災復興支援など、さまざまな取り組みを行ってきました。

「地域経済の理論書を読み込んで、それに基づいて現実を考えてみるとどうなるか。理論と実践ですね。頭でっかちでも困るし、現実しか見ないのも困る。すり合わせていくなかで解決策が見えてきます。私は、学生と教員は対等のチームで、一緒に物事に取り組むのだと考えています。たまたま私にはアカデミックな経験があるかもしれない。しかし学生は違う視点からの気づきがあり、素直に驚き、正論を吐く。新しい研究や活動につながっていくこともあります」。

印象的な事例はありますか？
「私が長崎大学に着任した翌年

の二〇〇一年、私のゼミでは疲弊する商店街の問題に取り組みました。ちょうど大型商業施設があちこちにオープンしたころです。長崎市の城栄町商店街には、朝昼晩と通う高齢者が多いわりに、休憩・交流できる場所がないことがフィールド調査でわかってきました。そこで、商店街組合にコミュニティスペースを作ると提案したのですが、金銭的な問題もあり実現しない。あきらめて退こうとしたら、ある学生が「それじゃあお客さんが困る。私たちがやります！」と言い出しました。そこで、あるビルの社長にプレゼンテーションし、フロアを一年間

長崎大学 経済学部

山口純哉

今回のテーマは「地域のなかで長崎大学に何ができるのか、立ち止まって見直してみよう」。
学生とともに地域での学びを十五年間実践してきた
経済学部の山口純哉准教授と共に考えていきます。



「学問」と 「現実」の間で

学生は何を 見つけられるのか

無償でお借りできました。椅子やテーブルは、ホームセンターと建築士さんの協力をとりつけ、親子木工教室を開いて製作。日中は交代で現場に出て市民と交流しながら年間六十ものイベントを行いました。当時中心になったゼミ生たちは、就職後も駅ビルの開発で地元商店街と協働を模索するなど、学生時代に培った視点を活かしています。

「かっちえる城栄」ですね。当時メディアでも大きく取り上げられました。

「二〇〇五年からは長崎で活動するNPOや市民グループを一堂に集め、横のつながりのなかでお互いの課題解決を図るコミュニティビジネススクウェア

ながさき(CBSN)を立ち上げ、学生主体で運営しました。それまでそういう場がなかった

こともあり、参加グループにも好意的に受け止められました。学生にとっても、世間一般に言われる「行政の縦割り」「地域の市民活動家」など、本で学んだことを現実に見ることができました」。

地域との 取り組みに必要な 覚悟とフィードバック

山口先生の原点は、大学院生の時に遭遇した一九九五年の阪神淡路大震災。指導教員と二

人、神戸長田区の避難所で聞き取り調査を行い、市民の立場から復興計画に提言等をしたそうです。

「被災直後から五年間ですからね、修羅場も経験しましたよ。しかしそのときに感じたのは、まちづくりで提言するというのは、そこにいる市民や事業者の生活を扱うこと。学生も教員もある種の覚悟がないと通用しない。単に研究させてくださいだけでは迷惑のかけっぱなしで終わります。最後には必ず情報を地域にフィードバックしなければバランスが悪いし、うまくいかないのです。もともと学生が必死にくらいについては、少々

の失敗くらいでは怒りませ

んよ、地域の人は」。

とはいえ、順当にテーマを見つけていける学生ばかりとは限りません。

「問題意識を持ってない人が、どうやってテーマを見つけるか。そのために私は自分が受けた行政の委員会やシンポジウムなど、外の場に学生を連れだします。食わず嫌いでではなく、あらゆる事象に積極的に接しながら、様々な問題や立場の違う人たちに触れてほしい。このプロセスで苦しむ学生の方が学びは大きいですよ」。

「学問」と「現実」の間を歩き来しながら、研究も社会貢献も学内の活動も教育に結びつけている山口先生。「最終的には、社会全体を見て自分が必要と取り組める人材を一人でも多く輩出していきたい」と語ります。

やまぐちじゅんや
1971年愛媛県松山市生まれ。神戸商科大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学。2000年より長崎大学、2007年より現職。専門は地域経済学(産業集積、ソーシャルビジネス、震災復興)。長崎市民民力推進委員会・委員長や大村市中小企業振興会議・会長、九州ソーシャルビジネス促進協議会・幹事を歴任。著作に『だからSB(ソーシャルビジネス)はやめられない』(宮崎文化本舗、共著)など。



「かっちえる城栄」での木工教室。子どもたちと学生もすっかり顔なじみに。

Interview

長崎の人々は長崎大学をどう見ているのか？
長崎大学と地域の新しいつながりの可能性とは？
そこで、市民やNPO、行政の方々に集まっていただき、
学生も加わって座談会を開催しました。

キーワードは 地域愛!?

山口／地域と大学の関係は以前から注目されています。九十年代に学生をどんどん地域に出そうという盛り上がりがありました。それが、その後下火になりました。単に地域に入って何かしたという体験だけでは役に立たないし、受け入れ側は毎回ゼロの状態の学生と同じ説明をしなければならず、前に進んでいる感じがしない。そこを教育と割り切ってもらえればいいが、なかなかそうもいかない。しかし最近になって再び盛り返してきて、学生もいっしょにまちを

作っていかうという動きがあります。そこで、ここで一度立ち止まり、市民の方々のざっくりとしたご意見を聞きたい。まずは長崎大学との関わりを含め自己紹介をお願いします。草野／新大工町商店街のなかの新大工町市場の理事で、惣菜店をやっています。以前、商店街で宅配サービスを行うにあたって、料金や求められる品目などの聞き取り調査で山口ゼミにお手伝いいただきました。採算重視の私たちとは違い、役に立ちたいという熱意と柔軟な発想が

新鮮でした。「大学生だってこんなに考えているのに、俺たちは何をやってるんだ？」という気づきは、大人の人材育成にもなりません。原田／長崎市役所の都市経営室におります。山口先生とは水辺の映像祭や、異業種交流の集まりなどで接するようになりました。あらゆるところに先生がいらっしゃる（笑）。自治基本条例づくりでも委員長で活躍してもらいました。市内の大学では長崎大学とお付き合いが一番長いのですが、もっと深く付き

合いたいですね。

曾根／私は市役所の商業振興課で商店街を担当しています。事業者の人材育成事業を組み立てるとき、商業を知らない我々だけではダメだと山口先生に入っていたいただき、まとめもらいました。

ほかのゼミOBの意見も代弁していきます。

安元／アートクエイクという団体の代表をしています。アートのまちづくりを行う団体で、今は浜町の活性化イベントを手がけています。先生とのお付き合いのなかで印象に残っているのは、長崎のコミュニティサークルやNPOを集めたCBSN。大学というのは、地域のなかにあつてこういうこともできるんだと発見しました。それまでの小中高大と続く学校の一つという見方から変わりました。

廣瀬／山口ゼミのOBです。学生時代はたくさんのお会いも経験し、二年間で一〇〇〇人と名刺交換しました。現在、子育てしながら、長崎産の真珠やサンゴを使ったアクセサリー開発販売の事業を手伝っています。介護や育児で外の仕事ができない女性が家でできる仕事を、という理念に共感しました。今日は

山口／実はCBSNを運営していた学生は、安元さんを判断の基準にしていました。自分たちがやってきたことが、一般の人からどう見られているのか。安元さんが苦い顔すると「学生レベルだったか」、ほめてくれると「あ、それなりのことができた」。安元さんも原田さんも「これはおかしい」と学生にハッキリ言ってくれるのです。安元／僕は「学生なのにやっている」と評価はしないと心掛けていたからね。

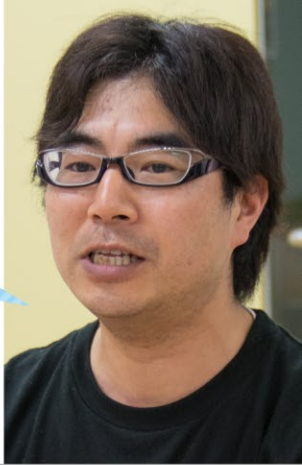
廣瀬／他のOBも「学生なのにえらい」って地域の人に言われると自己満足になると言っています。地域の方の貴重な時間をもらう以上、甘やかさないでと。

山口／小川さんは大学一年生でこれから四年間経済学部で勉強するわけだけど、大学が地域とこういうつながりがあると知っていましたか？
小川／正直、知りませんでした。みなさんそれぞれやっているんですね。でも興味はあるので参加してみたいですね。
山口／今、原田室長のところで経済学部の教養ゼミナール（一年生の教養教育科目）がお世話になっていきます。
原田／「游学のまち」事業の一つです。長崎にはいい企業がたくさんあるけれど、知られていない。そこで学生が企業を取材して紹介パンフにまとめるといいう試みです。商工会議所に相談に行ったら「それは一石二鳥、若い学生が来たら元氣も出る」。折よく経済学部の西村宣彦教授からも「学生を地域に出したい、何かいい方法はないか」と相談を受け、計画がまとまりました。結局十八社が学生とマッチングできました。
山口／草野さんは商店街にいられて地域の状況を持って感じているのではないですか？
草野／そうですね。何しろ商店主の高齢化が一番の問題。それ

でも若い人に買い物物に来てほしいし、お祭りもいっしょにやりたい。ただ、どういう風にやっていいのかわからないのか、大学のどこに話を持って行っていくのかわからない。窓口があるといいですね。企業より商店街と連携するのが一番ハードルが低いんですよ。リクルートスーツはいらなから（笑）。顔なじみになれれば大学生活も豊かになる。そういう自然な関係が商店街と大学

で築けたらいいなあ。そうなれば大人になってお母さんになって、今度はその子がまた来てくれる。そういう循環して地域経済が活性化していきます。安元／長崎で地域課題を抱えて活動している人たちは多いけれど、間をコーディネートする人がいません。地域と大学でもそうで、大学もどうやって地域に手を差し伸べていいのかわからない。そこを含めてコーディネー





再開意の再
商店街の
発に学生
見を活か
い!どん
参加して。

新大工町市場理事
草野一康さん

トする人間の存在が大きい。

山口／安元さんはさまざまなかちづくりに関わっていますね。安元／そうですね、深堀地区のまちづくりのワークショップでは大学生がファシリテーターをやるといので私がやり方を教えました。銅座川や岩原川の再開発でも同じようなことやっています。実際に関わっていると、工学部などの先生方や学生との接点は多くて、中立的な専門家である大学の存在は大きい。ただ、実感としていま一歩突破できず、もどかしい思いもしばしばです。お互いにマインドを持って聞き合うという場面が設定できない。

山口／その「もう一歩」を越えていくために何が必要なのでしょう。廣瀬さんは県の委員会にも入っていますね。普通はみんなくのか。安元／ある種の目標を共有しながらやるのがいい。例えば大学が「これをやったら経済学的にいい」ではなく、「このまちに必要なものはなんだろうか」という視点で研究テーマを選び、みんなが「確かにそれはそうだ」と合意する。それには長期のビジョンを共有すること。

廣瀬／OBからの提案ですが、学生の卒論を地域に対して公開



行政と行政
の2者だけで
煮詰まるより、
大学の力が加
われれば…

長崎市商業振興課
曾根ひろみさん

尻込みするのには、どうして？

廣瀬／県の次期総合計画懇話会の公募委員に手をあげました。子育て主婦という立場でよければ…と面接で伝えたので何も怖くはありません(笑)。県の将来を考える場でお母さんたちの課題を伝えられるチャンスです。会議前には保育園や身近なお母さんに「どういうことが問題？」とヒアリングします。

山口／どうしてそこまで？

廣瀬／うーん、地域を作っているのは私たち、そう考えることで社会は良くなっていくと大学で学んだから、私もそうありたい。自分のことだけ考えて生きると、地域全体や他の人の気持ちや生活のために自分に何が貢献できるか。一番最初に山口ゼミに入ったとき「あなたはデートよりゼミの活動を優先でしますか」という質問に「はい」と言ってしまった(笑)。サークルやバイトよりゼミの用件を優先させた。それだけの覚悟をもってやってきました。

山口／外とつながったときは、それを優先させるということですか(笑)。例えば、安元さんや原田さんのように熱く一生懸命やっている方と一緒に何かをやってみる経験は学生にとって重要ですか？



自分でできる
地域が、まだだけ
の何か、探りだけ
のチャレンジ
のだけだぞ

経済学部1年
小川莉乃さん

してはどうかと。これ実は行っている大学もある。学生は自分たちの研究が地域にどう貢献しているかという視点を入れて発表し、一般の人は学生が何を研究しているのか知ることができ、新しい協力関係が生まれるのではないのでしょうか。

原田／大学で先生方同士で地域について話す場はありますか？

山口／最近ポチポチ出てきましたね。それが今回の教養ゼミナールのような動きになったのです。今多いのは地方創生関連。専門分野を活かした大学の教員が関わって政策形成や企業の戦略策定に活かさないか。実はそのために、経済学部が地域とつながるプラットフォーム「地域連携サポートデスク」ができました。そもそも経済学はいろいろな利害対立のある主体

廣瀬／学生って社会経験がない

だけに地域の問題がわかっていない。地域の人と密に関わると、その人達が抱えている問題を自分事としてとらえられます。いつもやりとりしている安元さんが困っていたら、なんとかしてあげたいと本気になれる。でもいきなり学生さん手伝わって言われても本気にならないし、それが授業なら「単位のため」になってしまう。学生も地域の一構成員としての自覚をもっていけば、本気になれる。そのためには普段からつながりを持っておかなければ…。

安元／自分が地域のなかの人間だといつ自覚するか。僕はこの世界に入るまではサラリーマンでした。会社で自分を守ってくれているから、正直「長崎のことなんて知らないか」と思っていました。しかし会社を離れて地域のなかに入ってみると、自分を守られていないことに気づきました。

原田／役所の人間もある意味似ていて、九時から五時までの勤務の枠からなかなか出たがらない。以前、市民との会議が沸騰して「あんたたち仕事でしよるとやろう!」「仕事でこんな時間までするわけなからう!」この地域が好きだからたい!」と

をひっくり返して考えようという質問。「コーディネート」は必然です。

原田／長崎市は大学との包括連携協定を交わしています。そのなかで職員研修の講師も引き受けていただいています。数年で替わる職員を補う意味でもコーディネートが必要で、大学側が担ってくれるとありがたい。地元の方にコーディネート候補がいれば県外から呼ばなくてもいいし。

山口／そうですね。ただ、地域と積極的に関わろうとしている経済学部の教員は、まだそれほど多くありません。

全員／えっ!?!
原田／…じゃあ…どうやって大学と地域の連携を進めるんでしょうか…。

安元／もうおそろしくね、意識のある人でやっていくしかないよ。

山口／でも最近は教員の学外での活動情報が公開され、それを見た教員が、何かできることない?と声をかけてくれることもありますので期待しています。

小川／まだまだ知識が足りない自分を実感しました。これだけ一人一人の方々が、それぞれの思いを持っているのに、私は地



大学と企業の
マッチングが
成功すれば、
次々に新しい
事業も展開で
きます。

長崎市都市経営室室長
原田宏子さん

夜中までバトルして最後は分かりあった。地域愛ですよ。

安元／マインドとしくみと二つあって、マインドの方が重要。しくみというものもマインドがあれば意外とできるのではないだろうか。我々自身のマインドが足りないのか。

曾根／ここまでの話を聞いていて、いままでの自分の幅が限定されていたということに気づきました。それを広げるきっかけとしての大学、この座談会もまさにそうですね。商店街と長崎市の二者で計画を作ると、消費者や外の視点がないので自己満足で行き詰まります。やはり第三者が必要ですね。

山口／そうですね、教育学部の吉田ゆり教授がまちや商店街と子育てママの関係を書籍にまとめたばかりです。子どもを持つ

域のことを知らなかったんだなあと。地域愛に結びつくようなアクションを自分からおこしていきたいですね。

廣瀬／あのね、最初は自分事と思えないかもしれない。でもとにかく何かチャレンジしてみよう。そのときわからなくても、社会に出てから間違いなくその経験はプラスになります。実行力がついてアウトプットが多くなる。

草野／この前、新大工町の再開発で長生にアンケートをとったときに、まちづくりに関して興味のある人が多かった。自分たちが就職したり子育てしたりするときに必要なものを意見として出していけば、案外短期間に実現するかもしれません。

地域の一員で
あることに、い
つ気づくか、あ
るいは気づか
ないか。

アートクエイ代表
安元哲男さん



ことでまちの意味が変わってくるといふ指摘も興味深いです。

廣瀬／産後にまちを見る視点が変わったのは、おっしゃる通りです。ベビーカーで電車やバスに乗りやすかったら商店街でもっと買い物ができるのにと。でもハード以前に商品の魅力も重要。どこだろうと欲しいものがあれば行くし、同じ品揃えなら設備が整っていて一カ所で完結する大型商業施設を利用します。

曾根／子育てママの視点は大切ですね。商店街の会合は男性ばかりになりがちなので、女性の集まりを企画して吉田先生のような専門家に関わってもらえれば違う気づきがありそうです。

地れられ
時代に鍛えら
れれば、社会
で鍛えられ
ると、絶対
プラスにな
ります。

山口ゼミOB
ナガサキ・マジェンタ100
廣瀬福子さん



なったら」というような政策提言を受けるようなプロジェクトをやりたいですね。

安元／我々のまわりには生きた教材がいっぱいあります。それをキーにできることは多い。共有の場に、地域のために貢献したいという人が出入りすれば、人が入れ替わっても、つながっていきます。

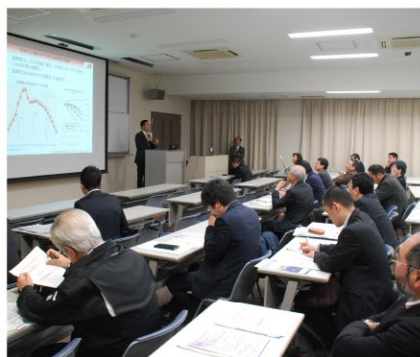
原田／勤務する課が変わっても参加できる、大学生が卒業しても参加できるような場。大学は中立の立場だから、場を作りやすいし集めやすいと思います。

山口／重要な指摘があります。まず、学生も教員も、地域で学ぶ、暮らす一員として地域のビジョンを共有すること。次に、ビジョンの実現にかかる課題解決のために、教員に加えて学生の研究等にかかる情報も広く公開し、大学の役割を考慮すること。そして、ビジョンの共有から課題解決の過程において、多様な主体がつながる場を、ニュートリナルな立場の大学なら設けられる可能性があることです。分野によって形は様々ですが、これらを念頭に置きながら、学問の府として大学が果たすべき役割を考え、実践していきたいと思います。

経済学部が「ハブ」になる 地域連携サポートデスク

高校などの教育機関や企業、行政が、長崎大学と協働したいときに気軽に相談できるワンストップの窓口があれば…。そんな声を受けて昨年立ち上げたのが、経済学部の「地域連携サポートデスク」。運営の中心を担う福澤勝彦教授のお話です。「実は学内でも地域とつながりたいがネットワークがないと悩む教員も多い。双方の風通しをよくし、プラットフォームの役割を持った組織です」。さっそく北海道から持ち込まれた案件をきっかけに今年3月にシンポジウムが実現。「産業技術総合研究所（産総研）北海道センターから、水産業や食品製造業に使う氷の新技术を用いて長崎で何かできればと相談をもちかけられ、我々が長崎の行政や水産・観光業界に声をかけ、一堂に会しました。考えてみると、北海道と長崎は、どちらも水産業と観光が基幹産業。しかしこれまで情報交換のルートはなかったの、非常に有意義なマッチングになりましたよ」。経済界との太いパイプや同窓会組織の瓊林会の心強いバックアップという、経済学部の特長を生かしたこの組織。経済に限定せず、さまざまなジャンルの連携の仲立ちに期待が寄せられています。

問い合わせ E-mail junya-y@nagasaki-u.ac.jp



経済学部で行われたシンポジウム「観光と水産：長崎と北海道の広域連携を目指して」。100名以上が集まり熱気も予想以上。ここからいくつものアイデアが生まれ、実現に向けて動き出しました。

母親とまちの関係を 調査から明らかに

教育学部の吉田ゆり教授は、この7月に専門書『子育て期の母親の自己効力感を支える都市環境整備の研究』（風間書房）を出版されます。「前任地の鹿児島時代を含め、10年ほど進めてきた研究の集大成です。『自己効力感』とは、先を見て何とかやっていけそうという考え。子どもを持つことで、それまで住んでいたまちの意味は変わります。施設の不備に自分が拒否されたと感じ、逆にちょっとした心遣いで救われる母親もいます。そのまちとの関わりの強い人ほど、拒否されたときのショックは大きいというデータも。整備のやり方も『予算が出たから作った』ではなく、主体である母親に子育て応援メッセージが届かないようでは意味がありません」。30組以上の親子の外出に同行し、身近な不具合や母親の動揺をリアルタイムで記録。心理学的手法で解明していきました。

斜面地が多くて市電のある長崎は、手を付けるべき課題もまだまだ山積みです。先生の専門的な見地が今後ますます必要とされています。



写真上／7月に出版予定の書籍『子育て期の母親の自己効力感を支える都市環境整備の研究』（風間書房）左／吉田先生。

長崎県内の 二級河川の 整備に専門的に 関わる

ここ数年、長崎の川が変化しています。例えば、銅座川は上部の駐車場が撤去されて水面を見せ、再開発計画が進行中。また大黒町市場を撤去して現れた岩原川周辺の整備も始まりました。一連の河川事業で出番が増えているのが、工学研究科の夢田彰秀教授。長崎県が管理する二級河川の河川整備計画策定委員会の委員長です。「河川整備基本方針は国や県で作られますが、整備には地元の意向も大切です。その間を取り持つのが、ニュートラルな大学の人間の仕事でしょう」。同じ流域でも管轄が異なったり、完成まで何十年もかかるなど、川の整備は独特の難しさがあります。「地域によって意識の温度差は激しくて、川に対する住民の関心度は川の現状を見るとわかります。私はワークショップなどで、市民の声をもっと聴き取りたい。防災も含め、住んでいる人が川を含めた流域をどうしていきたいかが一番大切です」。

行政と市民の間だけでなく、行政機関の間の意志疎通も先生のような研究者が入ることでスムーズにいくこともあるそうです。



河川工学が専門の夢田先生。長崎市出島史跡整備審議会の委員として表門橋の整備にも関わっており、長崎のまちづくりには欠かせない存在です。

座談会に出てきた話題を、
さらに詳しく
クローズアップ!

地元企業×1年生 新しい教養ゼミナール

経済学部と長崎市都市経営室、そして商工会議所青年部が一体となって進めているのが、「游学のまち」プロジェクトの一環でもあるビジネス育成プログラム。6人の先生方の下で学ぶ1年生90人が18のグループに分かれて地元企業を取材、その特長やセールスポイントをまとめ、企業紹介の冊子を発行するという新しい教養ゼミナールです。社会経験の浅い1年生のハジメの一步でもあり、経営者へのヒアリングは勉強にもなります。ご協力くださる企業にとっても最終的にPRとなれば、まさにWINWIN! まとめ役の西村宣彦教授によれば「経済学部は3年生で企業と組んで課題発見を経験するPBLプログラムがあるのですが、これはその前段階。調整や付添いは3年生が担当するというシステム」とのことです。



レンタカー会社「J-Net」でのヒアリングの一コマ。若手経営者の熱い思いを真剣に受け止める1年生の眼差しは真剣そのもの。松下太郎社長は「思った以上に積極的で、けっこう鋭いところを突いてくる。でも、うらやましいな。僕らの時はこんな授業なかったですよ」とも。

長崎市の新しい自治基本条例に「大学」への期待が!

これから制定される予定の「長崎よかまちづくり基本条例」（自治基本条例）は、平成25年から27年にかけて、さまざまな分野で活躍する市民委員と行政が同じテーブルで何度も議論を重ねながら作り上げたものです。その検討委員会の委員長が山口純哉先生。「大学もまちを構成する主体の一つ。地域唯一の総合大学として、長崎大学はまちづくりにおける多様な分野の専門性を備えています。参加や協働といったまちづくりの基本原則を踏まえて、長崎大学ならではの強みを活かした積極的な関わりが求められています」。

保健学実践教育研究センター
を中心に新たな挑戦

前号にひきつづき、長崎大学医学部の最前線をご紹介します。今回は保健学科です。

田中悟郎保健学科長にお話を聞きました。

「医学部保健学科の歴史は古く、明治三十六（一九〇三）年に県立長崎病院附属看護婦養成所として発足して今年で一十二年になります。原爆で壊滅的な被害をうけましたが、諫早や大村に場を移して教育が続けられてきました。昭和五十九年には長崎大学医療技術短期大学部として看護学科、理学療法学科、作業療法学科が設置されました。平成十三年には長崎大学医学部保健学科となり、その後、修士・博士課程ができました」。

時代のニーズに対応しながら、看護学、理学療法学、作業療法学の三つの専攻と大学院が確立されています。大学院教育では、高度な臨床能力や研究能力、地域貢献能力を備えた高度専門職業人の育成を推進しています。例えば、がんや放射線、遺伝など専門的な知識を持つ看護師や助産師の養成コースを持ち、各ジャンルのスペシャリストが指導しています」。

一度社会に出た現職者を対象とした教育も行われていると聞きました。「保健学科では、昨年度二つの高度医療人材養成のための社会学び直しプログラムが文部科学省の支援を受けることになりました。一つは「生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」（三年間）、もう一つは理学療法士と作業療法士を対象にした「高度リハビリテーション専門職の養成―長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラム―」（五年間）です。これらのプログラムを通じて地

長崎大学のいま!

医学部

保健学科

目指すのは
リーダーの資質をもつ
高度医療人材の育成



田中悟郎
医学部 保健学科長

たなか 悟郎
長崎大学医学部保健学科作業療法学専攻教授。九州大学大学院人間環境学府博士課程修了。青年海外協力隊、国立肥前療養所、北九州市立イケアセンター、長崎大学医療技術短期大学部等を経て平成二十年より現職。専門は精神障害作業療法学・精神障害リハビリテーション学。平成十六年四月より保健学科長。

域のニーズに応じた人材を育成していきます」。

この二つのプログラムの調整や、学部学生の現場での実習を組み立てるのが、昨年度内にできた保健学実践教育研究センター。統括する井口茂教授のお話です。

「実習プログラムは、学内の他学部や、病院、外部の施設や専門職能団体との綿密なコーディネートが欠かせません。かつてのように教員が個々に対応したり、病院・施設に委託したりするよりも、窓口を一本化して組織で取り組む方が効率も質も上がります。センターは保健学科全体の臨床教育の強化の支えをしているのです」。

理論も大切ですが、まず体が動くかどうか。社会での実践力は大学時の臨床実習の豊富さがカギなのだそう。

各専攻への
高い求人倍率

保健学科の卒業予定者には求人が多く就職活動がスムーズというのは本当ですか？

「その通りです。看護学専攻の学生の場合、全国的に求人数は非常に多く、大学病院などほぼ学生が希望する職場に就職できています。また、理学療法学や作業療法学専攻の学生においても県内から卒業予定者数の約五倍の求人が毎年あり、全体で五割以上が長崎に就職しています。また昨年度は県外からの求人も四五〇〇名以上ありました」。

それはすごい！ところで、保健学科の講義棟は長崎大学病院を見下ろす坂本の高台にあり、学生は通うだけで体力がつきそうです。「医療者は体が資本ですからね

（笑）。とはいえ、確かに毎日の登り坂は少々大変かもしれません。そのため昨年、エレベーターが設置され、とても移動しやすくなりました。また、一部の講義室や実習室が大学病院とつながった旧歯学部C棟の四階に新設されました。大学病院での実習も多いので大変便利になりました」。

それは学生にとっても耳よりなニュースです。「現在、下の棟にできたのは講義室、実習室など四室だけですが、将来的には保健学科の学生が使用できる教室がさらに増えると思います」。

より高い専門性と多くの実習経験。一度実社会に出た後でも高度医療が学べる体制が医学部保健学科の強みといえます。



旧歯学部C棟に新しく併設された講義室。このほか実習室など4室あり。



ヨーロッパ研修ではジュネーブにおいて、世界保健機関(WHO)でも研修。

がん、放射線、遺伝の 高度な専門知識を持つ 看護師へ

専 門看護師」という資格
があります。長崎大学
にも大学院保健学専攻看護学講
座の修士課程にこの養成コース
があります。専攻主任の大石和
代教授にお聞きしました。「専
門看護師は、高度実践看護師と
も言われますが、ケアだけでなく
キュア（治療）を含めた専門
的な知識や技術を持ち、保健医
療福祉チーム全体の教育を担い
ます。例えばがん看護専門看護
師養成コースでは、薬物療法や
幹細胞移植の看護、緩和ケアな
どの科目があり、がんセンター
などで実習を受け、がん看護専
門看護師の資格取得を目指しま
す。ほかに地域で活躍するがん
看護地域貢献看護師養成コース
や、放射線看護のスペシャリス
トを養成する放射線看護専門看
護師コースもあります。そのほ
か遺伝看護・遺伝カウンセリン
グコースがあり、指導するのは
日本で遺伝カウンセラー資格第



遺伝看護を専門にするきっかけは、助産師時代に出生前診断を行ったおなかの無き赤ちゃんに何となく力が入ったと語る佐々木先生。現場経験を向上心に昇華できる看護師が多く学んでいるのです。

一号を取得した佐々木規子助教です。「出生前診断や遺伝子検査など遺伝医療は急速に進歩しています。しかし患者さんの理解が進歩についていけず、自分の意思で選択することが難しい状況があります。そこで遺伝専門のカウンセラー資格を取った看護師が寄り添うことで、後悔のない治療や出産の選択の手助けをします。まだ資格者も少な

いので全国的にニーズは高いですよ」。佐々木先生は大学病院での遺伝カウンセリング室での相談も行っています。それぞれ、臨床経験を一定以上積んだ看護師がさらに高みをめざすプロフェッショナル養成コースです。取得すべき単位も多くカリキュラムはハードですが、専門看護師資格取得者を毎年数名ずつ輩出しています。

脳科学の視点から 発達障害にアプローチ

作 業療法学の中で、近年特に注目されているのが、子どもの発達障害。専門の岩永竜一郎准教授にお聞きしました。「注意欠如多動症（ADHD）や自閉症・アスペルガー症候群など、言葉はメディアでもたびたび取り上げられていますが、これらの障がい不登校やいじめ、虐待の原因になることもあります。なるべく早期に見し適切に接することで、子どももこのような二次的な問題を回避することができます。実際、クラス全体の1割、つま

り通常の学級でも三名前後は該当すると言われており、教師の研修も行われています。「我々作業療法学では生活面、行動面に注目し子どもや家族を支援します。療育や支援を考える際に、脳の中の伝達物質やネットワークなど医学的な見方を取り入れているところも特徴です」。発達障害者支援法が施行されて10年目。専門の療法士がまだまだ少ない一方で、福祉や教育現場でのニーズが高く、人材育成が急がれる専門領域なのです。



まずは子どもの発達を学ぶ学生たち。保健学科のOBに協力してもらい、さまざまな年齢の子どもの接する地域作業療法の実習中。



痛みのリハビリテーション論が 全国の教育モデルに活用

日 本のリハビリテーションの歴史は五十年と言われていますが、早期から「痛みのリハビリテーション（ペインリハビリテーション）」について研究を続け注目されている研究者が、理学療法学専攻の沖田実教授。国の科学研究費も十

年以上継続して獲得しています。「日本はもちろん欧米でも、延命治療優先のあまり患者が訴える痛みへの対策は遅れていました。しかし高齢化が進むなかで、慢性的な痛みの対策や予防によりやく目を向けるようになったのです」。骨折し安静



沖田先生が痛みや運動機能障害の研究を進めようと思ったきっかけは、五島での在宅ケアで出会った重篤な関節拘縮の患者さんでした。高齢化が進む日本で、ますます重要視されるジャンルです。



これまであまり痛みや運動機能障害についての教育を受けてこなかった医療者への再教育にも使われる先生の専門書の数々。

↓運動機能低下↓痛みから動かさない↓さらに運動機能が低下、という悪循環を断ち切り、体の持続的な活動をキープする。沖田先生は一連のメカニズムについて専門書も多く出版しており、理学療法士の全国組織でもテキストとして使われています。「長崎大学はそもそも、理学療法学では全国を牽引しており、国立大学のなかでは抜群の存在感ですよ」。ちなみに沖田先生のペインリハビリテーションを学べるのは、全国で、長崎大学医学部保健学科のみ。それを知って県外からピンポイントで学びに来る学生もいるのだそうです。

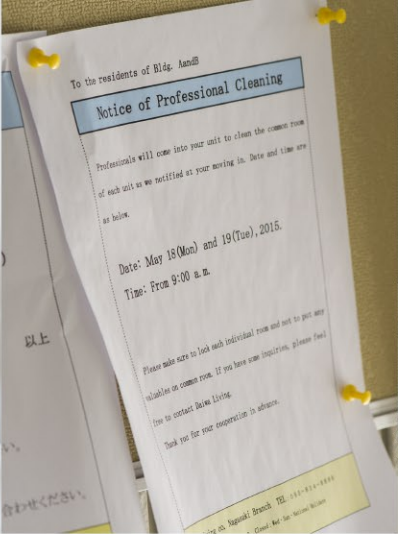


ジュネーブの国際赤十字本部の敷地内にある国際赤十字社博物館で災害対策にチャレンジする学生たち。

保 健学科では、毎年約十日間のヨーロッパ研修を実施しています。英語学習を目的とした短期留学とは異なり、保健・看護学の立場から多様な価値観や役割を学習する内容となっています。担当の大西真由美教授にお聞きしました。「昨年度はオランダとスイスを訪問しました。スイスでは世界保健機関（WHO）や赤十字本部等でグローバルヘルスや人道支援について学びました。オランダでは地域助産師クリニックや安楽死協会を訪問し、人の出生と死に関わる保健医療職の役割の多様性を学びました。こういった経験を通じて刺激を受け、英語を含め学習意欲が高まるようです」。国際保健の現場でキャリアを積んできた大西先生のネットワークが活かされたメニューが特徴。研修は基本的に希望者全員が参加でき、英語および学業成績次第では旅費の一部を助成するシステムもあるのだそうです。



個室のようす。隣の個室に友達がきてても音が気にならないくらい壁は厚いか。



掲示板には日本語と同じ内容の英語が必ず貼り出されます。



文教キャンパスから徒歩15分。チョコレート色の壁がおしゃれな2棟建てです。

Topics
多文化社会学部



Nagasaki University
School of
Global
Humanities
and
Social Sciences

日本人学生と留学生が 共同生活 国際学寮 ホルテンシア、 始動!



長崎市の花「紫陽花」のオレンジ語「hortensia」から名付けられた、国際学寮ホルテンシアが、今年度からオープンしています。多文化社会学部の一年生は原則全員がここに同居することになっており、留学生との共同生活が始まりました。一ユニットに四つの個室と共有部分があり、そこで暮らす四人のうち、かならず外国人留学生が一人居る「混住」型。それぞれの個室はありますが、キッチンやリビングなどは共有です。さて、学生たちはどんな生活を送っているのでしょうか。日本人学生三名、モンゴル人学生一名の男子学生ユニットをのぞかせてもらいました。

木村友紀さん／新築なのでキレイで快適ですよ。芝生の中庭には自然に留学生が集まり、テンポの速い英語で会話していて、最初は正直とまどいました。でもルームメイトとの会話はゆっくりでなんとか意識疎通もできました。身の周りにいろんなレベルの英語が飛び交っていて、だんだんと耳が慣れてきている実感があります。香月卓さん／窓を開けると英語が飛び込んでくる。もう、それは雑音ではないですよ。日本に居ながら、こういう環境は、これまでの英会話力が試せます。Anir Khurelbortar (Anir)さん僕は医学部ですが、これまでは坂本の

国際交流会館にいました。ルームメイトとの会話がうまく通じないときは：ほら、アレが……。香月／そう！ ホワイトボードと辞書。けっこう早い時期から役に立ったね。Anierl／会話が通じなくても書いて調べれば、だいたい通じる。木村／僕は高校のころは人とのコミュニケーションが苦手でした。でもここでは自分から話しかけないと何もできないので、だんだん積極的になりました。コミュニケーションが得意じゃない人こそ、この寮生活は向いているかもしれません。Anierl／みんなが実家に帰ると、お土産を持ってきてふるまうのが楽しい。僕もモンゴルのお茶やヌードルスープを買ってきてみんなに食べてもらいました。留学生だけの寮生活と比べ、それぞれに良さがありますよ。木村／料理も、それなりにみんなで作るしね。エビチリとか、この前はパースデーケーキにも挑戦したし。香月／わからなくなると実家に電話して「母の力」を借ります(笑) Anierl／坂本キャンパスでの授業は朝早くからあるし、文教キャンパスでは日本語の授業。一日はけっこうハードですが、自転車で行き来するので問題なしです。香月／Anierlはがんばってるよね。同世代のがんばりは刺激になります。



長崎市白鳥町8-77 (A棟)、8-78 (B棟)
収容人数135人(34ユニット)
問／学生支援センター(学生支援課生活支援班)
TEL.095-819-2103

ホルテンシアでは地域との交流を積極的にやってみようという大きな特徴の一つ。木村さんは地域交流を推進する係にもなりました。木村／周辺は高齢の方も多いため、地域の餅つき大会の「つく方(笑)」とかね。僕ら若者の出番でしょう。そのほか、中学生に英語を教える講座なども計画中です。先日は、留学生も含めた二十人ほどで被爆七十周年記念の動画にも出演する、名付けて「くすのきプロジェクト」にもチャレンジ。長崎出身のアーティスト福山雅治さんの楽曲「くすのき」をリリースする歌い繋いでいく動画で、長崎市長の次に出演したのだそうです。今号の表紙も掲示板のよびかけに応じた学生たちが出演してくれました。文化の違いをコミュニケーション力でのりこえていくホルテンシアという学びの場から国際感覚を持った人材が育っていきます。

大きな集会室にはスクリーンやキッチンも。ちょっとした集まりやイベントもできます。

1室バリアフリーのユニットもあり。床もフラットでシステムキッチンも低めと使い勝手よし。(こちらのみ3人ユニット)



RECNAの今後の取り組み 被爆地長崎の 「知の拠点」に

文 鈴木達治郎 RECNAセンター長



すずきたつじろう
1951年生まれ。東京大学工学部原子力工学科卒業。78年マサチューセッツ工科大学プログラム修士修了。工学博士（東京大学）。原子力工学専攻。国際核物質専門家パネの共同座長、核廃絶を目的とする科学者グループ「バグウォッシュ会議」評議員。2010年1月より2014年3月まで原子力委員会委員長代理を務め、2014年4月よりRECNA副センター長、2015年4月より現職。

二〇一二年四月一日、「核兵器廃絶」と銘打った日本で初めての公的な教育研究拠点「長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）」が発足しました。その後、RECNAは、梅林宏道初代センター長のリーダーシップの下、皆様の温かいご支援もあり、これまで数々の成果を上げ、着実に成長してきました。そして、被爆七十年という節目の二〇一五年四月一日からは、定年で退任された梅林先生の後を、副センター長であった私が引き継ぐことになりました。今後のRECNAの取り組みとしては、「知の拠点」となるべく、次の三本柱を進めていきたいと思っています。

国際的な核軍縮・不拡散動向の調査・研究

まず、国際的な核軍縮・不拡散の動向に

ついて学術的・客観的な調査・研究を実施し、学術研究拠点としてのRECNAを目指します。具体的には、NPT（核不拡散条約）再検討会議等主要な国際会議のモニタリングを中心に、核兵器の非人道性を巡る議論や核兵器禁止条約に向けての動き、中東・北東アジアといった地域の安全保障情勢、原子力平和利用と核不拡散の関係等の情報収集・分析を行います。特に、今年のNPT再検討会議でも明らかになったように、非核保有国の中でも、「人道性グループ」や「新アジェンダ連合（NAC）」といった多国間グループの役割が重要となっています。日本は「軍縮・不拡散イニシアティブ（NPTDI）」というグループで主導的役割を果たしてきましたが、残念ながら日本のように「核の傘」に依存する国は、今回の再検討会議では、むしろ核保有国に近い立場をとり、核兵器禁止に向けては慎重な対応をとりました。

一体となって、北東アジアの非核化を目指すプロセスを「ナガサキ・プロセス」と名付け、RECNAは、研究と政策を結ぶ新たな知の拠点として「ナガサキ・プロセス」の構築に貢献することを目指します。

核軍縮・不拡散分野の長崎大学ブランド人材育成

今回のNPT再検討会議で、日本が中心となったNPTDIが強く提唱した項目が、「核軍縮・不拡散教育と人材育成」でした。その提言は多くの賛同を得て、最終文書案にも組み入れられました。RECNAとしても、大学教育機関として、この分野

では、「核の傘」に依存する非核保有国の安全保障政策をどう転換するかが、重要なカギを握ると思われれます。また、原子力平和利用の分野では、核兵器に転用可能な核物質やその生産を可能とするウラン濃縮や再処理を含む「核燃料サイクル技術」の拡散防止が、大きな課題となつていきます。NPTで認められている「奪いえない権利」と「拡散防止」のバランスをとるための研究も重要なテーマの一つです。

これからの研究成果は内外専門誌への投稿および、「レクナ・ポリシーペーパー」やRECNA叢書として内外に積極的に公表していきます。また、五年毎に開催されるNPT再検討会議等主要な国際会議に参加し、研究成果の発信の場として活用していきます。その他、これらの研究活動で収集した国連・各国の公文書、核弾頭・運搬手段、核分裂性物質に関する文献やデータは、市民データベースとしての市民の方々にもわかりやすい形で公開します。このような調査、情報収集の結果を基に長崎県、長崎市、本学の三者により設置した「核兵器廃絶長崎連絡協議会」と連携し、地域密着型シンクタンクとして、「核弾頭ポスター」や「核物質ポスター」、市民向けの出版物の発行及び核兵器廃絶市民講座等を実施し、この分野での地域における知的基盤の拠点となることを目指していきます。

「ナガサキ・プロセス」構築への知の貢献

RECNAは二〇一五年三月に、これまでの三年間の研究成果である「北東アジアの非核兵器地帯に向けての包括的アプローチ」を発表しました。このなかで、七つの提言を行いました。その一つが、北東ア

ここで、文理の壁や実務・研究の壁を超えた軍縮・不拡散教育プログラムを構築することを目指します。また、国際原子力機関（IAEA）や、包括核実験禁止条約準備機構（CTBT）などの国際機関で、世界に通用する人材を育成することを目指します。

また、国連をはじめとする海外機関から若手研究者や専門家を受け入れ、被爆地長崎で核問題について学ぶことができる体制や、本学学生等を国際機関や核軍縮・不拡散分野で著名なシンクタンク等に派遣できるように支援体制を確立します。このように、RECNAは核軍縮・不拡散分野で「長崎を最後の被爆地に」の願いの具体化に貢献できる「長崎大学ブランド」人材を育成することを目指します。

「ナガサキ・プロセス」を通じた世界の非核化への貢献



写真上／5月にニューヨークで開かれたNPT再検討会議に集まった世界の若者と交流する、ナガサキ・ユース代表団の面々。下／NPT再検討会議第3委員会のようす。

サバの意外な語源

グラバー図譜に登場する魚を山口敦子教授に解説していただくコーナー、今回はゴマサバです。

「ゴマサバ（スズキ目サバ科サバ属）は、日本周辺、オーストラリアやニューギランド沿岸、メキシコ太平洋沖、アラビア半島沖などに広く生息します。学名の *Scomber* とはギリシア語でサバ、*australasicus* とはオーストラレーシア（南太平洋の総称）のことを指しています。同属のマサバとは一見よく似ていますが、ゴマサバには体側の下部に多くの小黒点があることなどで区別できます。ただし、小黒点のはっきりしない場合もあって、見分けるのは案外難しいです。ゴマサバは体高が低く、体の断面が丸いことから、長崎ではゴマサバをマルサバ、マサバをヒラサバと呼んで区別しています。

サバの語源については諸説あります。歯が小さいことに由来し、小歯と呼ぶようになったという説や、斑葉魚、すなわち体表に顕著な斑模様があることに由来するという説もあります。古くはコロラ（コロ魚：体に斑模様がある魚）と呼ばれていたといいますが、長崎ではハガツオをサバガツオと呼び、シマフグをサバフグと呼ぶ地域もあるように、いずれも模様のあることをあらわす斑葉に由来するようです。また、沖縄でサバと言えば、サメのこと。沖縄の海人

したのは、共通して長崎出身の方でした。身はモチっと弾力があり、少なめの脂に甘味と旨みが凝縮されているため味わい深く、「こっちが食べ慣れた味」と口々に。私にとって目はから鱗の衝撃的な事件でした。その後ゴマサバに対する見方が変わったのは言うまでもなく、ものの価値というものについて改めて考えさせられました」。

面白い、やはり食べなれた味は、愛されるんですね。

絶品！

首折れサバの刺身

「サバの生き腐れ」といわれるようにサバ類は鮮度落ちが早いことで有名です。サバ類にはヒスチジンという物質が多く含まれており、漁獲後短時間で分解されてヒスタミンに変化すると、人によってはアレルギー症状が出ることもあります。そのため、生で食べるにしても酢しめることが多く、刺身で食べられるのは極めて新鮮なものに限られます。鹿児島県屋久島では、明治の頃から釣った直後にまだバタバタ飛び跳ねているゴマサバの首を折って血抜きをし、鮮度を保つ工夫をしていたのだそうです。今では全国に知られるようになった「首折れサバ」の始まりです。私も鮮度抜群の首折れサバを刺身にして食べてからは、もう

（漁師さん）が使う伝統的な小さな漁船「サバニ」とは、サバ（サメ）とニ（舟）からできた言葉です。サバではなかったのですね」。

温暖化で

ゴマサバが増える？

「ゴマサバはマサバに比べて温かい水域を好むため、九州沿岸で多くみられます。東シナ海ではゴマサバが主要な資源の一つとして、主にまき網で漁獲されています。産卵は東シナ海南部で主に一月〜四月にかけて行われます。寿命は六年ほどで、動物プランクトンや小型魚類などを食べる報告されています。

最近では、温暖化のためか本州の中部から北海道にかけての沿岸で、マサバに替わってゴマサバが増えているようです。資源としての価値が高いのはマサバの方で、私も長崎に来る前は、失礼ながら美味しくない方をゴマサバと認識していました。魚屋さんの店先によく肥ったマサバが並び始めたある年の秋、水産学部の地域貢献プログラムの一環でマサバとゴマサバの官能検査（食べ比べ）をしたときのこと。脂が乗っていかにも美味しそうなマサバを捌きながら結果を予想しつつ、種名は隠して食べてもらったところ、約半数の方はゴマサバの方が美味しいと言ったのです。ゴマサバを高く評価

すっかり虜になりました。身は締まり、弾力があってさっぱりした食感がゴマサバの持ち味。高知県土佐清水では、回遊しない瀬付きのゴマサバが「清水サバ」の名でブランド化されています。

ゴマサバの旬は夏と言われます。マサバは産卵が終わる夏には痩せて一気に味が落ちるものの、ゴマサバは年中体成分に大きな変化がないため、この時期ゴマサバの価値が高まるのです。しかし、ゴマサバ本来の旬について考えてみると、やはりマサバと同じく、夏の終わりくらいから冬にかけて程良く脂が乗って美味しいように思います。時期を問わず安定した味を提供してくれるゴマサバを、夏に、そして秋にも冬にも、季節を追ってぜひお試しください。塩焼き、シメサバ、竜田揚げ。ご飯もすすみます。



Glover Atlas

ゴマサバ

Scomber australasicus

画家 小田紫星

グラバー図譜

日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern & Western Japan



解説 山口敦子

長崎大学水産・環境科学総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に「干潟の海に生きる魚たち—有明海の豊かさと危機」（東海大学出版）など。

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

長崎大学広報誌

[チヨホー]

Choho

Vol.52

編集後記

日本がますます元気になるには、地方が活力をもつことであり、まずは「地域の力」に、より大きな期待がかけられています。Chohoでは、これまでいろいろな分野において、長崎大学と地域とのかわりについて、紹介してきました。

今回は特集として、地域経済をキーワードに、経済学部の山口純哉先生の長年にわたる精力的な地域での活動について、座談会を通して紹介しております。在学生はもちろん、受験生の皆様には、ちょっとしたことで地域とかわりが出て、地域に貢献できる自信がわいてくるのではないのでしょうか。長崎のまちが、多くの皆様方の力によって、ますます活性化されることを願っております。

「グラバー図譜」は旬のお魚である「ゴマサバ」です。これからの季節、成人の皆様にはビールがすすみそうです。

(原田哲夫)

[編集・発行]

Choho企画編集会議

編集長

原田 哲夫 広報戦略本部副部長
工学研究科 教授

副編集長

池田 幸恵 多文化社会学部 准教授

編集委員

堀内 伊吹 副学長、教育学部 教授
山口 純哉 経済学部 准教授
相楽 隆正 工学研究科 教授
松下 吉樹 水産・環境科学総合研究科 教授
小林 信之 医歯薬学総合研究科 教授
堀尾 政博 熱帯医学研究所 教授
佐々木 均 病院 教授
西田 憲司 やってみゅーでスクマネージャー
深尾 典男 副学長、広報戦略本部部長 教授
石田 亮二 広報戦略本部 主査
高藏 祐亮 広報戦略本部 主任
井上 泉 広報戦略本部
田村 匠平 広報戦略本部

編集 川良 真理
デザイン 三浦 秀樹
企画編集アドバイザー 浅野 眞

TEL.095-819-2007

FAX.095-819-2156

(E-mail)

www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

【発行日】2015年7月1日

プレゼントクイズ

長崎大学 通 クイズ

長崎大学に関する、知る人ぞ知る新事実が続々登場するクイズです。
さあ、あなたはどれが本当だと思いますか？

長崎大学の医学部保健学科には作業療法の授業として
ある芸術が取り入れられ、最新設備もあります。それはなんでしょう。

ヒント：歯学部棟4階に設置。

写真のための 撮影スタジオ



1

演奏のための 防音室



2

陶芸のための 電熱窯



3

解答は挟み込みのハガキにご記入のうえ、郵送してください(アンケート内容もしっかりご記入ください)。正解者のなかから抽選で5名の方に長崎県産品をプレゼント!

前号の 答え

Q 医学部の前身である長崎医学部専門学校時代に、
ある著名な文化人が赴任しています。それは誰?

A ① 斎藤茂吉

「語彙が豊富で漢字の使い方のうまい(斎藤)先生は、診察にあたって患者の異常なまでにデリケートな心理状態を的確に見抜いて…」『長崎時代の斎藤茂吉先生』に当時の教え子の回想録として書かれている通り、斎藤茂吉教授は1917年(大正6年)に、長崎医学部専門学校で精神科を教えていました。歌も詠んでいます。「シーボルトを中心とせるのみならず なお洋学の源とほし」。



大正10年卒業アルバム(斎藤茂吉教授)「写真で見ると150年の変遷」より。

今回のプレゼント

脂ののった長崎産の旬の寒サバの旨味を活かした燻製風味に仕上げ、ナズナやメナモミなどのハーブに漬けて仕上げた「サバの燻製薬草(ハーブ)仕上げ」は、第46回長崎県特産品新作展水産加工品部門で奨励賞を受賞しました。このサバを中心に、旬アジや赤カマスの開き、天然ブリみりん、イワシの桜干しなど、どれも逸品揃いです。今回は、正解者のなかから5名に、この塩干品の詰め合わせ「長崎のおさかなセット」をプレゼント。



玄界灘に浮かぶ生月島の海の幸がどっさり! 旨味もぎゅー! 4,320円(送料込)の商品です。

提供/マルイ水産商事 ☎0120-170133

長崎県物産館 TEL.095-821-6580 http://www.e-nagasaki.com/contents/n_bussan/

*「長崎よかもんショップ・四谷」好評営業中(長崎県東京産業支援センター1F)

平成27年度 長崎大学オープンキャンパス

- ◆日程 7月18日(土)
- ◆対象 高校生を中心とした長崎大学受験希望者
- ◆申込方法 学部によっては先着順で人数制限があるため、必ず事前にお申し込みください。
- ◆申込締切 7月6日(月)※水産学部の「オープンラボ」は、実験準備のため6月22日で受付終了しました。



文教キャンパス

多文化社会学部

- 時間/10:00~15:30
- 場所/グローバル教育・学生支援棟3階、4階
- 内容/【午前の部】学部の説明 10:00~11:00
Trial Lesson 11:00~11:30
なんでも相談室 11:00~13:00
【午後の部】学部の説明 13:00~14:00
なんでも相談室 14:00~15:30

※在学生が英語カフェと学生生活を紹介する学生イベントもあります。

教育学部

- 時間/9:30~16:00
- 場所/教養教育棟2階 中部講堂ほか
- 内容/【第1部】9:30~12:30 【第2部】13:00~16:00
・全体説明会(約50分)
教育学部の概要や入試についての説明など
・各コース・専攻紹介、質問受付など

薬学部

- 時間/13:00~17:10
- 場所/薬学部多目的ホール、各研究室
- 内容/13:00~14:30 薬学部全体の概要や入試についての説明、卒業後の進路についての紹介など
14:40~17:10 研究室見学と体験実験、個別相談等

工学部

- 時間/10:00~16:00
- 場所/中部講堂、各研究室ほか
- 内容/①全体説明会
【午前の部】10:00~10:50 【午後の部】13:00~13:50
工学部全体の概要や入試についての説明、就職状況への説明など
②11:00~16:00 工学科6コースのコース紹介。
個別相談もあり(当日参加可)

環境科学部

- 時間/10:00~15:00
- 場所/環境棟141番教室(1階)
- 内容/10:00~11:00(1回目)
13:20~14:20(2回目)
環境科学部全体の概要や入試についての説明、就職状況についての紹介など ※個別相談あり
- 11:00~15:00 公開実験など

水産学部「オープンラボ」※今年の受付は終了

- 時間/13:00~17:00
- 場所/水産学部大講義室(4階)各研究室
- 内容/13:00~13:20
水産学部全体の概要についての説明
13:20~ オープンラボ等

片淵キャンパス

経済学部

- 時間/10:00~16:00
- 場所/片淵キャンパス 経済学部講堂他
- 内容/①学部の説明
【午前の部】10:00~10:30
【午後の部】13:30~14:00
②模擬授業、学生との懇談会、個別相談
【午前の部】10:30~12:30
【午後の部】14:00~16:00

坂本キャンパス ①

医学部医学科

- 時間/14:00~15:50
- 場所/医学部 記念講堂
- 内容/医学部紹介、入試概要、教育プログラム、学生生活の説明。
推薦入試等入学生の活動紹介。質疑応答。

坂本キャンパス ②

医学部保健学科(当日受付可)

- 時間/10:00~14:00
- 場所/保険学科講義室、実習室
- 内容/保健学科全体の概要や入試についての説明。実習・体験体験、個別相談会など

歯学部

- 時間/13:00~15:30
- 場所/歯学部C棟7階第1講義室
- 内容/13:00~14:00
歯学部の概要や入試についての説明
14:00~15:30
在学生による学生生活の紹介
施設見学

その他

移動オープンキャンパス

- 日時/8月23日(日)13:00~16:00 ●場所/長崎県立佐世保北高等学校

高校教員向けオープンキャンパス

- 日程/9月18日(金)13:00~17:40
- 場所/文教キャンパス

申込方法や最新情報など、
詳しくは長崎大学のホームページをご覧ください。

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/open/>

リレー講座2015

長崎県知事

中村法道氏

7月23日(木)開催

『いま求められる地方の力』と題し、著名人の講演をリレー形式で開催中の、長崎大学リレー講座2015。最後を締めくくるのは、中村法道 長崎県知事。長崎県の目指すべき将来像を展望します。

- 日時/平成27年7月23日(木)19時~20時半(18時半開場)
- 場所/長崎大学文教キャンパス 中部講堂(長崎市文教町1-14)
- 詳細・お申込み/<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>
- 問 /長崎大学広報戦略本部 TEL.095-819-2007(平日9時~17時まで)